

タイトル：高知県立自然公園梶ヶ森の持続可能な観光地域づくりの取り組み

著者（肩書）：大下宗亮（梶ヶ森エコツアーガイド講師、高知県環境カウンセラー協会会長）

（602 文字）

高知県大豊町にある梶ヶ森は四国の中央付近に位置する標高 1399m ブナの原生林が残る単独峰で、他の山々の影響を受けにくいいため四国内ではこちらでしか見られない貴重な動植物が生育・生息しております。

それ故、古くから登山などに利用されてきましたが、近年は施設の老朽化や観光資源である自然環境の悪化もあり、来訪者は減少しつつありました。

これら自然資源の保護・保全と活用の在り方を模索し、持続可能な観光を成立させるため平成 30 年度に地域住民や専門家のご意見、先進事例をもとに山頂付近にある山荘をビジターセンターと位置づけたサスティナブルツーリズム構想および計画を立案しました。

翌年からは同計画に基づき資源調査（自然環境調査）を実施し、調査結果を活かした標本などの展示物の製作やガイド人材育成プログラムを作成しました。一方で 3 年にわたり荒廃した登山道の再生（近自然登山道整備）やサイン（看板）の改善にも取り組み、入山者の安全確保と環境保全にも努めました。令和 2、3 年にはこれら取り組みを踏まえたプロガイド兼観光プランナーの養成講座をスタートし、現在 21 名の修了生を輩出、修了生連携による新たな旅行・体験商品の造成も始まっております。

四国の山に残された貴重な生物、名瀑や雲海などの美しい景観を巡るエコツーリズムや SDGs 体験プログラムをご用意しております。ぜひ梶ヶ森まで足を運んで頂ければと思います。プロガイドが皆様をお待ちしております。



写真 サンヨウブシ（四国内ではここでしか見られない）